



おぐら
倉

校訓
自主
創造
協力



令和3年10月6日(水)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

＜学校教育目標＞

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

＜目指す生徒像＞

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
- ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
- ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

授業づくり共同研究（2年家庭科）

10月4日(月)3校時に授業づくり共同研究(技術・家庭科【家庭分野】)の公開授業が2年1組で行われました。単元は「よりよい衣生活を目指して」で、主眼は「本題材で学んだことを基にした意見交換を通して、衣服の活用や管理について、環境に配慮して自分にできることを考え、持続可能な衣生活を工夫するようにする」です。新学習指導要領の柱である「主体的・対話的で深い学びの工夫」としては、以下の2点に焦点化し、授業を行いました。

- より多くの考えを共有できるように、学級全体での意見交換の場では、ホワイトボードとタブレットやテレビなどのICT機器を活用する。
- 題材の最後には、よりよい衣生活を目指すために、生活の営みに係る見方・考え方の中でも特に「持続可能な社会の構築」の視点で捉え、主体的に衣生活に関わっていかうとする意識を高め、環境に配慮した衣生活の実践につなげることができるよう、衣服の選択から廃棄までの一連の流れを見直し、課題意識をもって衣生活について考えさせる。

2年1組の生徒は思考ツールを使って意見を整理し、タブレット端末を使い、環境のことを考えた衣生活を送るために、自分ができることを考えて宣言文を作成しました。
現代社会において、環境に配慮した生活を送ることは大切です。一方、安価で便利なものがある、修理や修繕費の方が高い現実もあります。経済と環境、環境と生活などを考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。(先生も自分の衣生活を反省しました・・・)



尾倉中学校はユネスコスクールであり、SDGs教育推進校でもあります。このような学習を通して、少しでも「持続可能な社会」に興味・関心をもってくれたらうれしいです。これからのみなさんは地球規模の考えが大切になってきます。

教科名	学年	単元名	日付	場所	授業者
家庭科	第2学年1組	1章6節 よりよい衣生活を目指して	令和3年10月4日	2年1組教室	石原和

主題
本題材で学んだことを基にした意見交換を通して、衣服の活用や管理について、環境に配慮して自分にできることを考え、持続可能な衣生活を工夫するようにする。

めあて
環境のことを考えた衣生活を送るために、自分ができることを考えて宣言しよう

家とめ
宣言文例 私はこれから、環境のことを考えた衣生活を送るために、
・熱下の穴は縫ってもう一度履くことを実践します。理由は、縫うことではくることができず、夜間を履きたくなくてその地球温暖化防止に繋がりますからです。
・石鹸を親に洗わせることを実践します。理由は、合成洗剤と比べて石鹸は地球に返すことができるので、水質汚染を防ぐことができるからです。

授業

めあて
環境のことを考えた衣生活を送るために、自分ができることを考えて宣言しよう。

本時の流れ

1. 本時のめあてを確認する。
(1)めあてを確認する。
(2)授業の流れを確認する。
2. 環境に配慮した衣生活の具体的な行動を考える。
(1)前時で分類した環境に配慮した衣生活の行動を、ヒントカードを手掛かりに、更に付け足して考えるものはないかを班で話し合い、緑の付箋に書き、付け加える。
3. グループで話し合った結果を、課題ごとに発表する。
4. 環境に配慮した衣生活を送るために自分ができることを宣言する。
(1)各自で宣言文にまとめ、タブレットで共有する。
(2)タブレット内で教師に提出した後、班のグループで共有する。
(3)テレビに写し出された宣言文を見て、自分と比較する。
【主】衣服の活用や管理について、環境に配慮して自分にできることを考え、宣言してまとめていく。(発言分析シート分析)
5. 本時を振り返り、友達の見聞を聞き、宣言に加えたことや分かったこと等を記入する。
6. 班のワークシートと全体のワークシートを撮影し、学習の過程が分かるようにする。

更に付け足して
ける意見は?

衣生活で実践できるようにするために、相手を明確にして、宣言しよう。

準備
教材書、タブレット、ホワイトボード、ホワイトボード、付箋(緑)、パソコン、テレビ、タブレット、提示物(本時の流れが分かるもの)

主体的・対話的で深い学びの工夫
より多くの考えを共有できるように、学級全体での意見交換の場では、ホワイトボードとタブレットやテレビなどのICT機器を活用する。
題材の最後には、よりよい衣生活を目指すために、「持続可能な社会の構築」の視点で捉え、主体的に衣生活に関わっていかうとする意識を高め、環境に配慮した衣生活の実践につなげることができるよう、衣服の選択から廃棄までの一連の流れを見直し、課題意識をもって衣生活について考えさせる。

社会学習実践【実践(発表活用)】

社会発展

1. 本時のめあてを確認する。
(1)めあてを確認する。
(2)授業の流れを確認する。

2. 環境に配慮した衣生活の具体的な行動を考える。
(1)前時で分類した環境に配慮した衣生活の行動を、ヒントカードを手掛かりに、更に付け足して考えるものはないかを班で話し合い、緑の付箋に書き、付け加える。

3. グループで話し合った結果を、課題ごとに発表する。

4. 環境に配慮した衣生活を送るために自分ができることを宣言する。
(1)各自で宣言文にまとめ、タブレットで共有する。
(2)タブレット内で教師に提出した後、班のグループで共有する。
(3)テレビに写し出された宣言文を見て、自分と比較する。
【主】衣服の活用や管理について、環境に配慮して自分にできることを考え、宣言してまとめていく。(発言分析シート分析)

5. 本時を振り返り、友達の見聞を聞き、宣言に加えたことや分かったこと等を記入する。

6. 班のワークシートと全体のワークシートを撮影し、学習の過程が分かるようにする。

更に付け足して
ける意見は?

衣生活で実践できるようにするために、相手を明確にして、宣言しよう。